

真菌アレルギーの新しい話題

気管支喘息と真菌アレルギー

国立病院機構相模原病院

秋山一男

気管支喘息の原因アレルゲンとしての真菌の重要性は、周知のことである。しかしながら、原因アレルゲンとしての真菌の特定は、ダニ、ペット類に比べると容易ではない。原因アレルゲン特定のための診断法としては、環境中真菌調査に加えて、皮膚テスト、血中 IgE 抗体測定、末梢血ヒスタミン遊離試験、さらには眼結膜試験、吸入誘発試験等を実施するが、それでも確定診断は、容易ではないことは実地臨床の場で経験するところである。臨床検査には、真菌から抽出された粗抗原、さらには精製抗原（アレルゲン）を用いるが、真菌は、培養方法や抗原抽出法の違いにより、得られる抗原成分が異なることが知られており、原因アレルゲン特定をさらに困難にしている。今回の口演では、「アレルゲンコンポーネントと気管支喘息原因診断」として、精製アレルゲンによる原因診断の可能性について述べたい。また、最近、重症喘息に有効性が明らかになっている抗ヒト IgE 抗体 **Omalizumab** のアレルギー性気管支肺アスペルギルス症（ABPA）に対する治療の可能性についても述べる予定である。